

ビワ生育情報

第 2 報
千葉県農林水産部
令和元年 11 月号

着花房率は「大房」は平年よりも多く、「楠」、「田中」は平年並みである。

台風により倒木し樹勢が低下した樹については強めに摘房し樹勢の回復を図る。

令和元年 10 月の気象

令和元年 10 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は全ての半旬において平年より高く推移した。月平均気温は 19.7℃で、平年より 1.8℃、前年より 0.8℃高かった。

降水量は第 2、第 6 半旬以外の半旬では平年より多く、特に、豪雨のあった第 5 半旬は 320mm と平年の一か月分以上の雨が降った。月合計は 662mm で平年の 265%、今年の 538%であった。

日照時間は第 3～第 5 半旬において平年より少なかった。月合計は 119 時間で平年の 87%、前年の 79%であった。

表 1 令和元年 10 月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	23.1	20.5	21.0	59	41	28	41	20	22
2	21.0	18.8	22.5	22	77	1	27	20	37
3	21.1	18.6	18.6	136	31	21	10	22	5
4	18.7	17.6	17.5	121	36	2	4	23	15
5	17.5	16.4	16.5	320	28	5	11	23	35
6	17.1	15.9	17.8	7	38	68	27	29	38
平均/計	19.7	17.9	18.9	662	250	123	119	137	151

12 月の作業 (花房の発育は次ページ)

気温が低下すると、ビワの枝葉や根の伸長はほとんど停止するが、開花は続き、幼果は少しずつ肥大する。台風の影響を受けた園では次の項目により樹の管理を行う。12 月は寒害防止の準備を行い、来春に向けて、苗木の植え付け準備にとりかかる。

台風による被害を受けた樹の管理

11 月 1 日現在、5 個の台風が日本列島に上陸した。本県のビワ産地ではこれまでに樹体及び施設への被害が報告されている。倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときパーク堆肥を一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病虫害雑草防除指針に従って防除する。また、樹勢が低下した樹は花房数が少なくなるように摘除し、樹勢回復に努める。

防寒の準備

開花期は平年よりやや遅いと予想されるため、寒害には充分気を付ける。毎年1～2月に寒波が襲来しているため、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるので、あらかじめ資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法があるので、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。また、防霜ファンの設置によって、放射冷却現象を緩和させることも有効である。

植え付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、苗の植え付けの適期は2月中下旬頃になる。植え穴の準備は年内に済ませておく。改植の場合には、白紋羽病の発病跡地は極力避ける。やむを得ず、発病跡地へ植え付ける場合は、農作物病害虫雑草防除指針に従って防除してから行う。また、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を取り除くことも重要である。

新植の場合、苗の植え付け距離は3～3.5mとし、10a当たり80～110本を植え付ける。樹冠の広がりに合わせて間伐を行い、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

樹及び花房の発育

着花房率は表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が88.7%、「大房」が93.7%、「田中」が81.4%でそれぞれ前年よりは低いものの平年よりは高い。花房の大きさは全般的に平年並みで、1つの花房に着生する花数も平年並みである。

本年は6、8及び9月に十分な日照があったため、樹の発育が良い。蕾の出現は平年より遅く、11月1日時点での揃いはやや悪く、その後の花房の発育はやや遅い。また、11月1日時点で、3品種とも開花が始まっていない。今後の気象にも影響を受けるが、現時点では開花の進みは平年より遅いと思われる。

アブラムシの発生は平年より少なく、カミキリムシ類の被害穴は少ない。なお、来年のカメムシ発生量は中発生と見込まれている。詳しくは、農林総合研究センター病害虫防除課の発生予察情報を参考にする。

(<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品種	本年 (%)	平年 (%)	前年 (%)
楠	88.7	83.6	96.2
大房	93.7	79.3	97.6
田中	81.4	76.9	90.3

平年：1989年～2018年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>